

# 御嵩町汚水処理施設整備構想

## 概 要 書

平成 29 年度

岐阜県可児郡御嵩町

## 【目次】

1. 汚水処理施設整備構想とは -----	1
2. 汚水処理施設の現状 -----	2
3. 汚水処理施設整備構想の見直しの理由 -----	2
4. 汚水処理施設整備構想の見直し結果-----	3

### 【汚水処理施設の役割】

#### ◆生活環境の改善

住宅のまわりの側溝や水路などがきれいになり、ハエや蚊などが発生しにくくなるので衛生的で快適な生活環境をつくれます。

#### ◆便所の水洗化

トイレの水洗化ができ衛生的で快適な生活ができるようになります。

#### ◆川や海などの公共用水域の水質保全

生活雑排水が直接、川や海に流れないようになり、これにより、川や海の水質が保たれ、豊かな自然環境が守られます。

# 1. 汚水処理施設整備構想とは

トイレやお風呂、台所などで利用され汚れた水は、汚水処理施設によって、きれいにしてから川や海に流す必要があります。

汚水処理施設整備手法には集合処理に分類される公共下水道や個別処理に分類される合併処理浄化槽など、様々な整備手法があります。「汚水処理施設整備構想」とは、この様々な汚水処理施設整備手法のうち、どの整備手法で整備することがコスト面あるいは早期整備の面から最適なのか、経済性比較を基本とし、各種汚水処理施設の有する特性や地域開発の動向等を踏まえ策定する計画です。県内の全市町村が一斉に計画を策定し、岐阜県が「岐阜県汚水処理施設整備構想(仮称)」として取りまとめるものです。

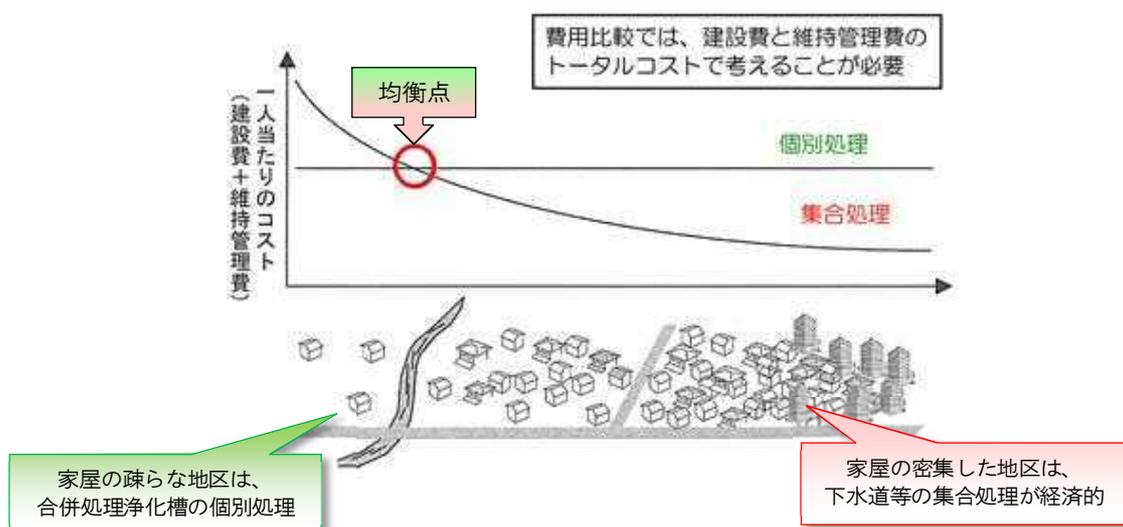


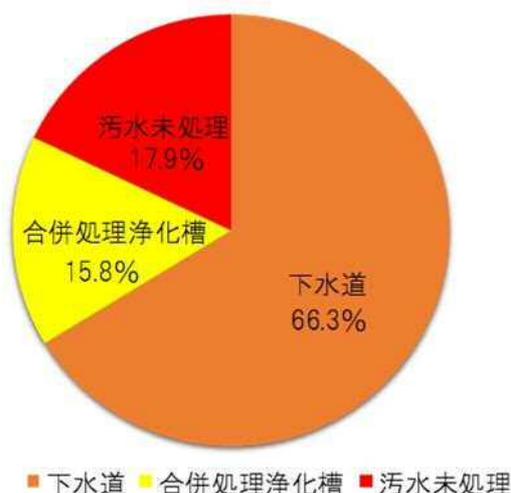
図 1-1. 整備手法比較のイメージ図

## 2. 汚水処理施設の現状

本町は、県が流域の幹線ならびに終末処理場を整備する流域関連公共下水道の関連市町（4市6町）のひとつとして事業を行っています。

汚水処理施設の普及状況を示す指標である汚水処理人口普及率※は、平成27年度末で御嵩町：82.1%であり、全国平均：89.9%、岐阜県平均：91.0%よりも低い値となっています。町内17.9%（＝100%－82.1%）の方々が、し尿のみを処理し、その他雑排水については未処理の状況で道路側溝等へ排水する単独処理浄化槽、あるいはし尿汲み取りを利用されている状況（汚水未処理）です。

御嵩町がスローガンとして掲げる「ふれあいたくなる川を共に育む 環境のまち みたけ」を実現するためにも、更なる汚水処理施設の整備に努め、衛生的で快適な生活環境づくり、良質な水環境づくりを推進していく必要があります。



区分	人口(人)	普及率(%)
汚水処理	下水道	66.3
	合併処理浄化槽	15.8
	小計	82.1
汚水未処理	17.9	
計(行政人口)	100.0	

※汚水処理人口普及率とは、各汚水処理施設の整備人口の合計（公共下水道整備人口＋合併処理浄化槽整備人口）を行政人口で除した値のことです。

図 2-1.平成 27 年度における汚水処理施設の整備状況

## 3. 汚水処理施設整備構想の見直しの理由

御嵩町では、平成5年度に「全県域下水道化構想」に基づき策定・公表を行っていますが、策定から約20年以上が経過しています。この間、社会情勢や都市計画等に変化があり、汚水処理施設の整備を取り巻く状況も変化しています。そのため、当該構想における将来の姿と現状とでは乖離が生じている状況です。

これら諸情勢の変化の他、経済比較に用いる汚水処理施設の施工単価等を最新の値に更新し、近年の町の財政力（年間投資可能額）を考慮した上で汚水処理施設整備構想の見直しを行います。

## 4. 汚水処理施設整備構想の見直し結果

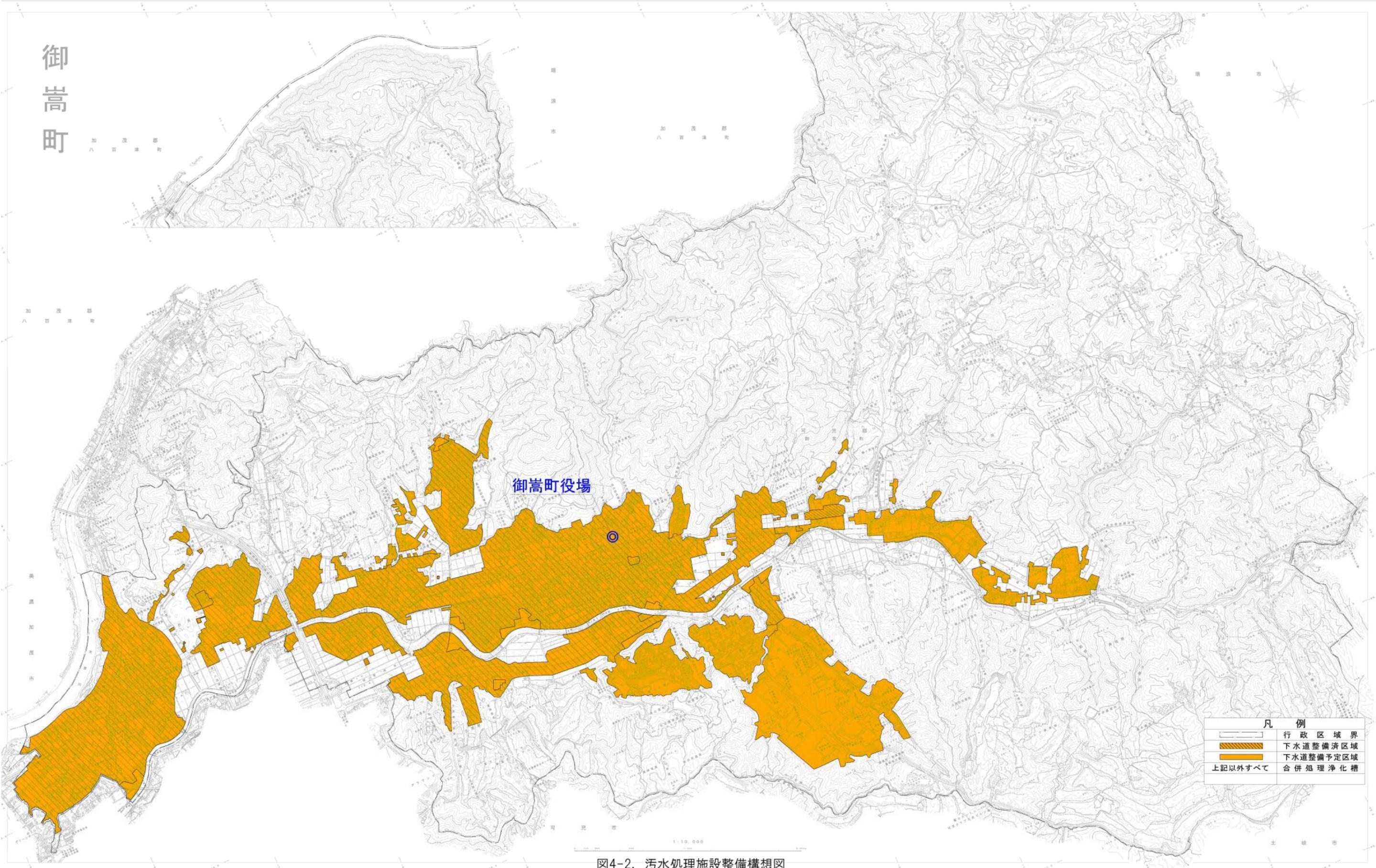
今回の見直しの結果を図4-1及び次ページの図4-2に示します。結果、御嵩町の大部分(93.1%)は、下水道により一体的に集合処理することが望ましいとの結論になりました。また、町の財政力等を鑑みた上で中期目標である平成37年度に汚水処理人口普及率を94.8%とする目標を設定しました。



図 4-1.汚水処理人口普及の推移

御嵩町では、これまでも生活環境の改善と公共用水域の水質浄化を目指し、下水道事業を鋭意推進してきましたが、今後も設定した目標を達成するため事業を進めていきます。また、下水道の事業計画区域外においても、合併処理浄化槽の整備として、転換に対する補助金の拡充や啓発活動を行っていきます。

# 御嵩町



凡 例	
	行政区域界
	下水道整備済区域
	下水道整備予定区域
上記以外すべて 合併処理浄化槽	

図4-2. 污水处理施設整備構想図